

平成29年9月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年10月23日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 185億円余
2. 前年同月比	4.6% (2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭6.4%(91.3%) : 非店頭-11.4%(8.7%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年8月対比±0店)
5. 総店舗面積	843,650㎡ (前年同月比:-4.4%)
6. 総従業員数	18,165人 (前年同月比:-4.1%)
7. 3か月移動平均値	2-4月 -1.3%、3-5月 -0.7%、4-6月 -0.2%、 5-7月 -0.3%、6-8月 1.0%、7-9月 2.1%

[参考] 平成28年9月の売上高増減率は-3.4%

【特徴】

- (1) 東京地区売上は4.6%増と2か月連続で前年を確保した。休日が分散した暦の関係から、入店客数は0.7%増と売上の伸びに比べ低調で、デイリー商材の食料品等に一部影響があった。半面、景気情勢を反映した消費マインドの好転を背景に、高額商材の活況や複数売場の買い回りが促進され、客単価は向上した。
- (2) 主力の衣料品(1.2%増)は東京地区でも前年をクリアしたが、この要因には、気温低下の天候与件に加えて、顧客ニーズに合わせた新規ブランドの積極導入、比較購買のし易さや各店の独自性を加味した自主編集売場の展開などがあげられる。具体的なアイテムとしては、紳士服・洋品(3.9%増)では、スーツ、ジャケット等のビジネス関連、婦人服・洋品(0.4%減)では、ブラウス、スカート、ストール、ブルゾンなどが堅調に推移した。
- (3) 雑貨は前年から二割増(19.9%増)と高伸した。秋のコスメフェアなど販促施策が奏功して、インバウンドを除く国内需要も極めて好調な化粧品(30.9%増)、需要拡大が顕著な高級時計等の高額商材(美術・宝飾・貴金属:16.0%増)が牽引した。身のまわり品(4.0%増)も2か月連続のプラスとなったが、食料品(2.0%減)は、改装工事による面積減や人気催事の会期ずれ、不漁不作による生鮮食品の価格高騰などが影響し前年には届かなかった。
- (4) また、各社が積極展開した外商等の優良顧客向け催事、地方物産展や取引先企業と連携したコラボ企画など様々な施策はいずれも好評で、業績向上に貢献している。
- (5) 10月は、国慶節によるインバウンドの盛況も受け、中間段階の商況は2.6%増(10/17)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 7店、③減少した: 7店
- (3) 9月歳時記(敬老の日、彼岸)の売上(同上/有効回答数11店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 8店、③減少した: 0店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年09月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	118,529,686	100.0	4.6
紳士服・洋品	8,756,074	7.4	3.9
婦人服・洋品	21,630,413	18.2	-0.4
子供服・洋品	2,190,673	1.8	3.2
その他衣料品	2,213,054	1.9	3.9
衣 料 品	34,790,214	29.4	1.2
身のまわり品	17,538,404	14.8	4.0
化粧品	13,787,706	11.6	30.9
美術・宝飾・貴金属	8,830,448	7.4	16.0
その他雑貨	5,157,213	4.4	2.8
雑 貨	27,775,367	23.4	19.9
家 具	1,598,194	1.3	9.3
家 電	718,475	0.6	15.5
その他家庭用品	3,517,390	3.0	-10.8
家 庭 用 品	5,834,059	4.9	-3.2
生 鮮 食 品	3,943,240	3.3	-6.1
菓 子	6,582,429	5.6	-2.2
惣 菜	5,967,984	5.0	-2.0
その他食料品	8,517,044	7.2	0.3
食 料 品	25,010,697	21.1	-2.0
食 堂 喫 茶	2,883,887	2.4	-3.8
サ ー ビ ス	1,946,630	1.6	4.0
そ の 他	2,750,428	2.3	9.3

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	1,813,820 千円	-3.7
従 業 員 数	18,165 人	-4.1
店 舗 面 積	843,650 m ²	-4.4
営 業 日 数	30.0 日	前年 30.0 日

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が10か月連続、衣料品、身のまわり品が2か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が13か月連続、食料品が3か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が30か月連続、美術・宝飾・貴金属が5か月連続、紳士服・洋品、子供服・洋品、その他食料品が2か月連続、家具、家電が2か月ぶり、その他衣料品、その他雑貨が5か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	4.6	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	3.9	0.3	2か月連続プラス
婦人服・洋品	-0.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	3.2	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	3.9	0.1	5か月ぶりプラス
衣料品	1.2	0.3	2か月連続プラス
身のまわり品	4.0	0.6	2か月連続プラス
化粧品	30.9	2.9	30か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	16.0	1.1	5か月連続プラス*
その他雑貨	2.8	0.1	5か月ぶりプラス*
雑貨	19.9	4.1	10か月連続プラス
家具	9.3	0.1	2か月ぶりプラス
家電	15.5	0.1	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-10.8	-0.4	6か月連続マイナス
家庭用品	-3.2	-0.2	13か月連続マイナス
生鮮食品	-6.1	-0.2	19か月連続マイナス*
菓子	-2.2	-0.1	3か月連続マイナス*
惣菜	-2.0	-0.1	2か月ぶりマイナス*
その他食料品	0.3	0.0	2か月連続プラス*
食料品	-2.0	-0.4	3か月連続マイナス
食堂喫茶	-3.8	-0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	4.0	0.1	3か月ぶりプラス
その他	9.3	0.2	2か月連続プラス
商品券	-3.7	-0.1	2か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>